



鬼子母神大祭で祈祷する副住職

字の羅列。原則いわゆる全
て漢文である。妙法蓮華經
も例外ではない。現代人に
とっては、漢字漢文の体を
なす經文は、とかくアレル
ギーを生じ拒否反応すら催
しかねない。特に、戦後教
育により漢字の素養を喪失
させられた私たちには致し
方ないのである。

芳紀千六百年

しかし、この漢文による

法華經と日本人との出会い
には、並々ならぬ不思議な
因縁譚が存在する。

遙か遠き時代、いにしえ
の印度天竺にて発せられた
梵語（ニサンスクリット）
による仏の御言葉は、釈迦
の滅後、はるばる支那朝鮮
を経て、日本に伝わった。
いわゆる三国伝来である。

多国間にまたがる長い歴史
上、絶えず存在した天災人
災を乗り越えて、かろうじ
て日本に伝教される。まさ
に、奇跡である。

法華經信者が、普段何気
なく接し、有難くも当たり
前のように、お経本を介し
読み聞きしている、妙法蓮
華經。鑑みれば、信仰の拠
所としている、この法華經
という經典が漢訳されて本
年がちょうど千六百年の芳
紀にあたる。これを機会に、

法華經漢訳の意義を皆様に
紹介していきたいと思う。

三藏法師・鳩摩羅什

まずは、全国津々浦々の
日本人が拝見するあらゆる
宗旨の經文は、そのほとん
どが、三藏法師の一人であ
る鳩摩羅什による梵語漢訳
によるものである。



鳩摩羅什

膨大な仏典の翻訳。印度
から中国へ。漢字圏で生活
する人々に対しての仏教移
入が、鳩摩羅什の大きな功
績である。

日本人が、今でも、仏典

に拠ることが出来るのは、
偏に、鳩摩羅什のおかげで
ある。法華經信徒に限らず
このことは無条件に顕彰す
べきである。

仏教東漸

仏教は、印度にて顕され
た。印度各地域諸王は賢明
なるが故、仏教を厚く庇護
し、結果大きく流布され興
隆した。歴史的事実に照ら
し合わせても、東アジアの
指導者たる王侯は賢ければ
賢いほど仏教を深く理解保
護する。

しかし、時代が進むと、
地政学上、大小国家異民族
が乱立し興亡流転甚だしい
印度国内のみでは、恒久的
な仏教の伝播が困難な状況
に陥る。

仏教という真実の智慧の
光は不滅である。決して、
絶やしてはいけない。どう

にかして後世に伝えたい。人々は真剣に憂慮した。一体どうしたらよいのだろうか。

だが、この難事は解決される。

日の光は、西に沈むものの、必ず東より照らし返す。自然の摂理。真理である。

同じく、仏教も普遍的真理である。

たとえ、西の国において仏教が衰微しても、必ず東の国において興隆し輝きを増す。だからこそ、仏教を東の国に伝えなければならぬ。

東に伝わった仏教が後日再び西に伝わり、あらゆる衆生を救い直すだろうといった希望が生じた。

そうして、仏教は印度より東に広まると解釈される。仏教東漸思想は生み出される。



初講で桑田上人を紹介する副住職

るに至る。

三国伝来の萌芽

このような時代背景の下、鳩摩羅什は中央アジアの一国に誕生し、幼少は王族の身分にて生長し、母の勤めにより出家し、長じて印度へ仏典研鑽に旅立つ。鳩摩羅什は印度各地の精舎を遍歴、高学を積む。そして、最勝の師シュマリソヤとの運命の出会いを果たす。

鳩摩羅什の素質を見抜いた師匠は、鳩摩羅什に法華經を含めた一切經典の奥義教義を授け、東方傳教の使命を託す。

「仏日西に入って、遺耀將に東北に及ばんとす。此經典（法華經）は東北に縁有り。汝慎んで伝弘せよ。」

師匠シュマリソヤは、この遺訓を以って、特に法華經一卷をねんごろに鳩摩羅什へ託したと言ひ伝えられる。

師匠は何故に法華經を託するにあたりこの一文を添えたのか。仏典中法華經こそが東北にあえて伝わり弘がるべきであると。

当然、元來の仏教東漸思想に基づく言質でもあろう

が、もっと広く深い仏典への理解帰依が理由であろう。仏教が、はるか遠い東の国々にまで伝わるには、恐らく、相当の永い年月を必要とするに違いない。末法時代に重なるであろう。だからこそ、その時代に即し、一番に必要とされる經典が重要となってくる。

「如來の滅後において閻浮提の内に、広く流布せしめて、斷絶せざらしめん。」

法華經八之卷に説かれる言葉。つまり、末法の世には法華經あるのみ。釈迦は、自身滅後においての仏教の活路が、法華經に説かれる菩薩行による上行の実践に他ないと結論づけるからである。その言葉である。

この大切な遺訓を担った鳩摩羅什は、その後いく変転を経て、命からがらにして、ようやく支那に渡り精力的に梵文から漢語への翻訳に傾注するに至る。

法華経漢訳、そして今

鳩摩羅什は、支那にて翻訳作業を開始する。ただその姿は、黙々とパソコンに向ってキーボードを叩くといった現在の文章作業とは全く違う。又、思い浮かぶであろう、ひとり庵に籠り作業をなす孤独な体にも合致はしない。

天竺遊学で培った学識をもとに、才氣溢れる鳩摩羅什が、教団の最前に立ち、梵文の經典を講義解説、それを取り囲む弟子数千人が傍聴し質疑応答をへて一文一句吟味の上、梵文から漢文へ翻訳作業を積み重ね、

各經典を編纂するといふ、気の遠くなりそうな膨大な作業風景であったという。先生と弟子が異体同心に、難解な經典を翻訳する。まさに、經典の一字は仏様と同等である。且つ、多くの先人たちが成仏を求めた魂の宿る尊い存在でもある。

この事務作業を支えた熱意は、釈迦の一文一語たり



大黒天祭で副住職賞を渡す

とも決しておろそかにはできないという、真摯な気持ちの顕われである。又、なんととしても、仏教を東の国に伝えなければならぬという熱意が原動力であった。

「月は西より出でて東を照らし、日は東より出でて西を照らす、云々、末法は東より西に往く。」「顕仏未来記」

後に続いた求道者たちは、鳩摩羅什の遺奇を重々に格護し弘経伝教に大いに邁進する。右が日蓮大聖人のお言葉。畢竟、末法無明において頼るものは、法華經の要旨根本たる菩薩行を法華經求道の精神を掲げる灯火をおいて他は無し。

月は西のはてより東を照らす。太陽は東の際から西



初行成満の副住職（前列左から3人目）

を映し出す。大いなる力。この月と太陽の如き法華經の光によって釈迦の慈悲に照らされた最東の国日本は、今後永続して、毎日立ち上る太陽のように、法華經の光明によって、率先、末法無明の闇を照らし出さねばならない。これは使命である。

偉大な先達・鳩摩羅什の法華經の遺徳が宿る東の国に住まう日本人こそ、この

貴重な責務を内包している。皆様も、経文の一文一句一文字の尊さを今一度再確認し、是非、一層の信行に精進あるのみ。

五十号記念

鳩摩羅什によって漢訳編纂された法華経は、千六百年もの間、受持読誦解説書写され、現在未来へと伝えられている。

いくなれば、法華経の経典は、本当の仏典を正しく伝えるという鳩摩羅什の魂の顕現でもある。今般、『圓頓寺たより』も五十号の記念すべき節目を迎えることが出来た。圓頓寺たより発行も、同じく正法を伝えるという大事な役目を担っている。今後、圓頓寺たよりが、法華経弘通伝道の器に足り得ることの出来るよう努力していきたいと思う。

副住職特別講座説明

発心|| 菩提心を起こすこと。
類聚|| 同じ種類の事項を集めたもの。

因縁譚|| 不思議な因縁が語られるおはなし。

鳩摩羅什|| 中央アジアの翻訳僧。学僧。

東漸|| 勢力が次第に東方に進み移ること。

萌芽|| 物事の始まり。

精舎|| 僧侶が仏道を修行する所。

閻浮堤|| 我々人間が住む世界。

弘経伝経|| 教典を弘め伝える。

畢竟|| つまり。

末法無明|| 暗闇。

遺徳|| 後世に残る恩徳。



平成5年11月法灯継承式、総代さんとともに

初講法要

大聖人の御入滅を供養

編集委員 藤川悠子

新年の行事である「初講法要」が、一月十三日厳かに奉修されました。

この法要は、本年度初めてのご命日に講をおこし、大聖人のご入滅を供養し、報恩の祈りを捧げるものです。例年になく記録的な寒さが続いていましたが、今日は一寸寒さがやわらいだようです。これも多数の檀信徒の皆様のご異体同心の現れでしょうか。本堂一杯に鳴り響く団扇太鼓とお



桑田上人の法話

題目の後、熊本市妙行寺副住職「桑田尊弘」上人が、『蔵の財たからより身の財、身の財より心の財』について、分かり易くお話をして下さいました。現在の世の中は、自分さえ良ければ他人はどうでもよいよ
うな、加害者なのに被害者意識を持つようになってい
るに思います。
◎多欲不知足（欲多くして足ることを知らず＝不満足）。人には三毒、①どん欲（むさぼりの心）。②瞋恚（怒りの心）。③愚痴（おろかな心）があります。自分自身を反省し、お題目を唱え、法華経を
読みよく理解し写経をする人
は、お釈迦様にお会いしてい
ると同じであり、三毒に悩
むことはありません。



桑田上人の法話を聞く檀信徒

◎少欲知足（欲が少なく足ることを知る＝満足している）。供養しているといつの間にか、身代わりとして心の満足を得ることが出来る。心の豊かさ、心の幸せを忘れてはいけない。心の健康がすべての原動力となります。やすらかな心を得るには、手を合わせ一心にお題目を唱えることが一番の近道であるということ。また、どんな急な坂道でも、横には法華経という灯がともって

日産プリンス熊本販売(株)

※ 只今、試乗会開催中 ※

お車のことなら何でも、お気軽にお電話ください。

〈 3号線沿い、中央通り 〉

山鹿店 0968-43-5148

山鹿市上下水道工事指定店
給排水・衛生施備・冷暖房設計施工



とらや商会

山鹿市鹿校通1丁目3-29

☎43-2212(代)

(FAX) ☎44-5900

ることなど、ご自分のお寺のお檀家さんとの不思議な満ち足りた、温かいお話と共にお伺いし、深い感銘を受けました。

次に、英知上人導師の元、六名のお上人で報恩初講法要とご先祖年始総供養会が奉修されました。

英人上人のお話は、昨年は天変地異があり大変な年であったが、今年こそは、正しいお題目を唱え、他の人にも弘通の輪を広げたい。お題目の力を信じて、檀家ではなく信者となるように願っています。とありました。

初講は、例年通りの本膳です。前日より地区当番の方々、総代様、婦人会の方々のご奉

県下の帰山式に参加して

合志市 木下美枝子
今年も熊本県下で八名の



初講法要奉仕当番の方々

仕があり、ありがたく感謝申し上げます。

今年も健康で、よき年になりますようにと心より祈り、私の帰りを待つ母を思いながら、帰路につきました。

合掌

お上人が、千葉県の中山法華経寺の厳寒一百日の大荒

行を成満され、帰山されました。

☆湯前町 栄立寺 村井信照上人 参行

☆多良木町 延寿寺 松本就願上人 初行

☆荒尾市 正覚寺 竹下義聡上人 初行

☆益城町 日眞寺 沢村眞脩上人 再行

☆熊本市 妙永寺 有戸光政上人 初行

☆菊池市 妙蓮寺 堀尾大悟上人 初行

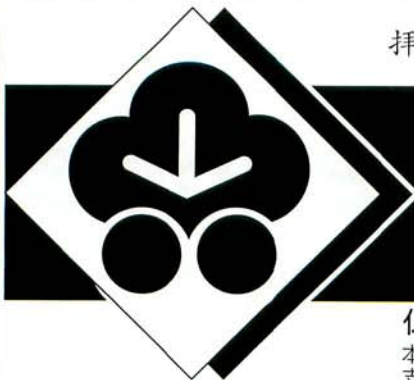
☆阿蘇市 妙光寺 塚本光晴上人 初行

☆八代市 宗覚寺 山口弘雄上人 再行

◎二月十二日

湯前町・栄立寺「村井信照」上人の帰山式は、めずらしく正午からでした。球磨郡と遠いから気遣って下さったのことに思いました。

拜む心で尊い品を◆お仏壇、お仏具のご用命は



梅谷佛具店

仏壇・仏具・寺院用品・寺院納骨堂設計施工

本店 福岡県博多区下川端町10-9 TEL 092-271-0456 (代)
支店 福岡市西区周船寺3丁目9番4号 TEL 092-806-7499

駅前からのお迎え行列の中に、村井上人のご子息三人

(小学生?)が白装束に袈裟をかけ、共に出発を待っておられました。そこへ荒行僧さん方が着かれるとお父さんの元へ駆け寄って、顔を見上げながら何か話しておられる姿を見て、涙が出ました。今年の寒行では信徒さんと共に、お父上の無事を願って毎夜勤められたと伺いました。頼もしい後継ぎが出来ていると感じました。

◎二月十三日

多良木町・延寿寺「松本就願」上人の帰山式は、お迎への信徒さん、信者さんが多いのにびっくりしました。特別祈禱を申し込んでおられる方が百名ずつ本堂に入場されているのに、七百番までおられました。す

ごいお寺だと実感いたしました。

◎二月十四日

荒尾市「竹下義聡」上人の正覚寺は、荒行堂に入行僧をだすことが始めてだそうです。何をどうして良いか分からない。お金もない。檀信徒も少ない。でも荒行成満を期してお上人が入山して下さる。このことで檀信徒の方達一致団結して、手作り石垣を築き直し、道路を造り、庭も広げ、若上人のために車庫を造り、玄関、トイレ等も材料持込のすべて奉仕で準備してありました。日蓮大聖人様お導きの異体同心で何事もやれば、という実践で立派に出来ていました。お迎えされる住職が檀信徒の皆様方に対してのお礼の言葉も、トツトツと話されることに

感情がこもっていて、感動いたしました。

◎十五日は、帰山式はお休みでしたが、圓頓寺護持会役員会がありました。英知上人は、帰山式があれば県の修法師会々長として、全寺院に出席され許証を授与され、毎回すばらしいご挨拶をされます。大忙しのお身体ですが、一日も休まれることは出来ないようです。

◎二月十六日

益城町・日眞寺「沢村眞脩」上人お迎えの日は雨でしたが、あまりひどい降りではないので、団扇太鼓にビニール袋をかぶせてたたき、傘をさしてお迎いの行列でした。お寺は新築して立派でしたが、道路から下の方へ降りてゆく、屋根の上を車が通って行く様などろでした。

航空券・JR・個人旅行・団体旅行

株式会社 **ワールド観光**

TEL 0968-72-5656

玉名市中尾426-3

◎二月十七日

熊本市・妙永寺「有戸光政」

上人の横手という町はお寺が多く、宗派は違つて何十軒とあり、日蓮宗だけでも八ヶ寺あります。ここではお迎え行列はありませんでした。広い本堂に二三人掛けられる、布製の折りたたまれる椅子が沢山おいてありました。お祝いの折詰めは老舗より華弁当を準備してありました。

◎二月十八日

菊池市「堀尾大悟」上人の妙蓮寺は、本堂の前庭に大きな楠の木がある町の中のお寺です。車は菊池神社下の駐車場にとめ、その駐車場から行列の出發です。菊池の街を歩きました。水行が終わって本堂で帰山式、あふれるほどの人です。荒行入行のための費用はどのくらい必要なのか。いらぬ心配をいたしました。妙



平成15年英人上人の帰山式：許證授与

蓮寺さんでは、入行支援と記念事業として本堂の補修、サッシ戸設備等として、一戸五万円が集められたようで、梁に氏名と金額を記した紙が下がっていました。童謡でおなじみの「大庭照子」さんもこのお寺の檀徒さんで、歌でお祝いをされました。始めは驚きでしたが、厳肅な中にホッとしました。ような柔らかな風が流れました。

◎二月十九日

阿蘇市「塚本光晴」上人の妙光寺は、新築された家で、お寺のイメージが無い感じでした。福岡の本佛寺で修行中のお上人で、お寺開創以来始めての入行だそうです。青年会の姿はなく、信徒の方達の手作り帰山式で、お上人方も少なく、挨拶される方も町の役職者だったり、お寺を建築された方とかで、本佛寺お上人のご挨拶が後だったりしました。青年会のお上人達によれば準備から進行、後片付けまで手ぎわ良く完璧にこなされることを思い出しました。

◎二月二十三日

十時より本妙寺で全帰山僧の水行と祈禱会がおこなわれ、たくさんのお詣りがありました。英知上人の高座説教もありました。

◎二月二十四日

呉服の反後の住所・電話が変わりました!!

〒860-0868 熊本市清水万石3-2-2

☎0968-344-4759 FAX096-344-4760



株式会社 呉服の反後

代表取締役 反後 皓雄

八代市「山口弘雄」上人の宗覚寺からは、檀信協は来なくて良いとの意でしたが、他の帰山されたお上人方と同じくお祝いを、と行くことになりました。このお寺でも青年僧はお手伝いがなかったようで、水行が終わった後片付けを檀信協の役員さんが手伝っておられました。本堂で帰山式、役職お上人は、宗務所長塩田上人と、修法師会々長英知上人のお二方のみ。お上人のご挨拶も他になく淋しく感じました。帰山上人方が座する処は平常は荒ムシロですが、ここでは大きな座布団でした。帰山式に引き続きお上人の佛前結婚式があるので、二重のお慶びとのことでした。

以上のように、各方面八ヶ寺にお詣りさせていただきましたが、それぞれに皆心をひとつにして、荒行堂に送り出

し、成満を願い、帰山される喜びを共に仕度してお迎えする。素晴らしい姿を見せていただきました。

今年は、英人上人が再行として入行されます。英知上人

鬼子母神大祭・村井上人 大荒行参行の体験を法話

熊本市 福山博子

法話をいただいた村井上人は、湯前町「栄立寺」副住職で、熊本県日蓮宗青年会会長を務められ、全国の



村井上人の法話

のご指導のもと私共も修行を重ねるつもりで、来年の成満帰山式を、心をひとつに迎えられるよう頑張つてゆきたいと思ひます。

南無妙法蓮華經

副会長として活躍されておられるお上人様でございます。今度、大荒行第参行を成満されました。熊本県より入行されました八名の皆様は、全員無事に成満なさり心よりお祝い申し上げます。村井上人は、『千葉県中山の大本山「法華経寺」に、十一月一日入行衣という麻の衣を着け、百日間の荒行に入り、結界と申しまして世の中との情報、人の出入りを絶ち、

婚礼・着付

サンロード大住

山鹿市古閑 1286-3

☎ 44-6277



大安寺の御住職も参詣

朝二時半に起床し、一日七回三時間ごとに水行がある。朝昼夕のお勤め、読経、木剣手法の相伝を受け、修得するために懸命に頑張るのです。
住職、家族、檀信徒の方々、友人、荒行の仲間達によって修行が出来ているんだなあと気付かされる。大きな縁に包まれて生きている私達である、ということに気

付くのです。お釈迦様がおっしゃったご縁という教えは、一人で生きているのではなく多くの縁に包まれているんだよ！ということが見えてくるのです。
お布施についても、布施の精神がある人、布施とは必要とする言葉を掛けてあげるなど金品だけではないこと、布施により荒行堂が成り立って行く。人や仏様に対する布施がしっかり出来る人は、信頼があり信念が強い。と話されました。
私は「村井信照」という肉体で生きているが、肉体を動かすいろんな力が働いている。魂を持って生きている。修行の中で自分の魂が高くなれば、回りにも魂を高めていくことが出来る。心の光、布施の心、回りの姿をよく見なさい。布施の

心で生きてゆけるような人達と和を作ることが出来る。まず自分が人様に優しくすること。仏様のような生き方をすること。人に奉仕の心で生きるような生き方をする事。
私達は肉体だけでなく、縁により生きている。自然に与えられた力をいただき生かされている。肉体の他に、魂を持って生き、働い



赤ちゃんもおまいり



郷土に生まれて味ひとすじ

仏・祝会席・鉢盛・寿司



プラザ店 ☎ 44-4743 ☎ 43-1739
仕出部 ☎ 44-5804